

## ＜令和3年度 そば栽培について＞

レポート作成者：出雲崎町農業委員会事務局 関本

出雲崎町農業委員会では遊休農地対策として、令和2年度に引き続き「そば」の栽培を行った。

昨年の反省から、肥料や雑草対策のマルチを検討し、刈り取り後の作業工程についても委員の意見を取り入れながら行った。

### ○事前準備（6月上旬～下旬）

草刈り後、昨年、雑草対策で設置した黒マルチを剥がし、溝切を行った。今年は委員の機械を借りて溝切を行ったため、効率よく作業が進み、作付け部分を囲むように設置することができた。



草刈り



マルチ除去



溝切作業

### ○畑作り（7月下旬）

今年は耕起等の時期について事前にJAへ相談し、委員同士で相談を行った。その結果、1回目の耕起作業を播種1週間前、土壌改良のために石灰40kgを散布することになった。

現地で作業を行った委員からは、昨年作付けを行った場所は、草の状況や土の状態が改善されているという意見があった。

また、現場で行った意見交換の結果、雑草対策で実施するマルチは、耕作面積の半分程度にし、マルチがあると無いとで雑草管理や収穫の際の手間がどの程度違うか検証することとなった。



トラクターで耕うん



石灰撒き



耕うん完了

## ○耕起（2回目）、畝上げ、マルチ張り、播種（7月下旬）

当日は30度を超える猛暑日でかなり厳しい作業となったが、今回の作業から当町の地域おこし協力隊として着任した小畑さんが仲間に加わり、活動への協力やPRをしてもらうことになった。元々、農業分野を学んでいたこともあり、作業内容に関する検討にも積極的に加わってもらった。

まずは、元肥として有機肥料を15kg散布し、土壤に不足していると考えられる加里を補うため塩化加里（粒剤）20kgを撒いた。その後、トラクターで耕し、収穫作業のスペースを考慮して110cm間隔で畝を作った。

種は、昨年収穫した信濃1号約3kgを使用し、今年も鳥害、雑草対策として、贅沢ではあるが穴あきマルチを敷いて種を1穴3～4粒程度埋めることにした。穴あきマルチは腰を落として1穴ずつ埋める作業なのでかなりきつい。作業効率も悪く、ある程度のマンパワーがないととても割に合わないと考えられる。

マルチを敷いていない畝は直播したが、そば栽培経験のある委員から直播した畝の上を転圧した方がよいのではないかという意見をもらい、委員が自宅にある丸太を急遽加工し、丸太を引きながら転圧を作業を行い、なんとか午前中に全ての作業を完了した。

最後に猛暑日が続く見込みであったため、水撒きの検討を現地で行ったが、あまり水が足りないというそばの栽培を検証するためにも、水は撒かないこととなった。



トラクターで耕うん



畝上げ



マルチ張り



マルチに播種



直播



レーキ・マルタで転圧



○種まき完了！ ～ 発芽 ～ 開花（10月下旬～11月）



4日後には一部発芽が見られた。その後、猛暑が続くが播種した場所全てで発芽が進んだ。9月頃からイノシシ？シカ？と思われる足跡が発見され、踏み荒らしなどの被害が懸念されたが、開花も順調で特段の影響はなかった。

溝切により水はけが良くなったためか、山側の生育が特に順調であった。



8月6日の様子



8月17日の様子



9月17日の様子



10月4日の様子



## ○収穫～乾燥作業（10月下旬～11月）

10月4日、刈り取り時期を確認するめ経験のある委員に現地を見てもらった。結果、すぐに刈り取った方がよいとのことだった。昨年の経験からも刈り取りはもう少し後になるかと思っていたが、播種が早く、天気の良い日が続いたため、通常よりも生育が早まったのではないかとと思われる。急いで準備を行い、翌日には刈り取り作業を行った。

刈り取りは当初、鎌を使用して行っていたが、草刈り機を使用する方法なら作業の省力になるかもしれないという意見があり、急遽ではあったが、草刈り機を使用した刈り取りも試した。

機械作業のおかげか昨年よりも早く刈り取りを終えることができたが、雑草等を取り除く作業は時間かけて丁寧に行う必要があった。会長から念入りにふるいにかけてもらったが、汚れ等をより丁寧に取り除くため、水洗いを試した。実を洗って大丈夫？という意見もあったが、脱水をよく行い、海沿いある会長宅で、晴れた日の天日と自然の海風で乾燥してもらった。



刈り取りの様子（鎌使用）



刈り取りの様子（奥で草刈り機使用）



収穫直後の様子

まだ葉や小石が混ざっている状態なので・・・  
選別と水洗いをさらに実施！！



天日干しによる乾燥の様子



乾燥後の実

## ○総括

2年目となったそば栽培は、新型コロナウイルス感染症が急速に拡大したこともあり、そば打ち等のそばを活用したPR活動は実施できなかったが、全体を通して、痩せた土地でも比較的育ちやすく水管理もあまりいらぬ「そば」は、当町の主要品目である水稲と作業時期がずれていることもあり、遊休農地対策に有効な作物であることが証明できたと考える。

小規模な場合は、非常に有効であると考えますが、一定規模以上の作付けをする場合は、排水対策や収穫など機械化が必要になると考えられ、販路開拓と合わせて事前の準備が必要になることは言うまでもない。気候条件や当町の農作業実態に合った作物を確立することは容易ではないが、引き続き出雲崎町の遊休農地の有効活用に向けた活動をして参りたいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。